



【開催内容】

- 種苗会社おすすめの春夏野菜品種紹介
- 春夏野菜の栽培について
- 園芸肥料の上手な使い方

春夏野菜の栽培のポイント

1. タネの性質について

タネの寿命

性質	品目名	備考
寿命の短いもの (1~2年)	ネギ、タマネギ、ニラ、ゴボウ、ニンジン、ミツバ、インゲン、ラッカセイ等	古いタネは使わない
やや長寿のもの (2~3年)	キャベツ、カブ、レタス、ピーマン、ソラマメ、エダマメ、ホウレンソウ等	残ったタネは貯蔵できる
長寿なもの (3~4年)	ダイコン、ハクサイ、キュウリ、カボチャ、ツケナ類等	同上
かなり長寿なもの (4~6年)	ナス、トマト、スイカ等	同上

タネの保存方法

余ったタネは紙（ティッシュなど）の上に広げて乾かしてから、水を通さない防湿性の容器に乾燥材として生石灰かシリカゲルを敷き、タネを入れて密閉します。

タネを保存するとき、温度と湿度が低い条件でタネの寿命は延びます。

具体的には・湿度 60%以下、約 0~10℃以下

⇒家庭では・冷蔵庫や保冷庫などの冷暗所に保存

○タネが使えるかどうか判断するための発芽実験

①皿にティッシュペーパーを敷き、②水をティッシュがひたひたになるくらい加えます。

③タネをその上に置きラップを被せます。④室内に置いて発芽を観察してみましょう。

タネの発芽条件

①温度

発芽適温が比較的低温（15~20℃）： ホウレンソウ・シュンギク・ミツバ・レタス・ニラ

発芽適温が比較的高温（20~30℃）： トマト・ウリ類・ピーマン・トウガラシ・インゲン・ゴボウ

②水分

一般的に、タネを浸してある程度吸水させたものを播くと発芽が早くなるとともに揃いがよくなります。ただし、水のやりすぎには注意！発芽不良の原因となります。

③光線

性質	品目名	発芽のポイント
好光性種子 (発芽の際に光線を好むもの)	ニンジン・インゲン・カブ・セルリー・春菊・ミツバ・レタス・シソ・コマツナ・ゴボウ	播種後、覆土の量を少なくする
嫌光性種子 (発芽の際に光線を嫌うもの)	ナス・トマト・ピーマン・カボチャ・ネギ・タマネギ・ダイコン	播種後、覆土の量をやや多めにする

2. 野菜の輪作

連作障害とは？

同じ野菜・または同じ科の野菜を同じ畑に作ると、生育が悪くなったり、枯れたりする現象。

原因：特定の病害虫による害、忌地現象、土壤中の養分の不均衡など⇒これを防ぐために輪作を行う。

◎連作障害の出にくい野菜と出やすい野菜

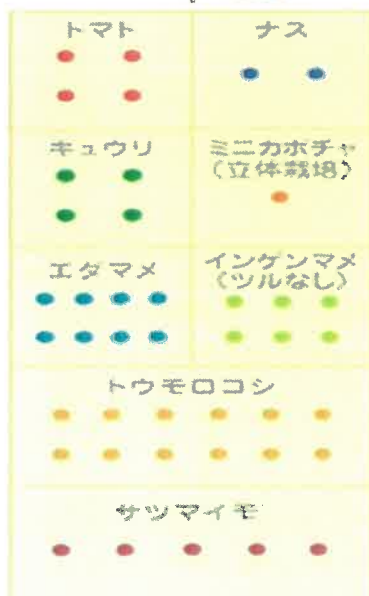
連作しても障害の出にくい野菜	サツマイモ、カボチャ、ニンジン、ダイコン、タマネギ、ニンニク、ネギ、ミョウガ、トウモロコシ	
連作すると障害の出やすい野菜	エンドウ、ナス、スイカ、サトイモ	4～5年休栽
	ナス、トマト、ピーマン、メロン、シロウリ、ソラマメ、ゴボウ	3～4年休栽
	ジャガイモ、レタス、ハクサイ、キャベツ、キュウリ、イチゴ、ショウガ	2年休栽
	高菜、からし菜、ホウレンソウ、小カブ、インゲンマメ	1年休栽

輪作の例



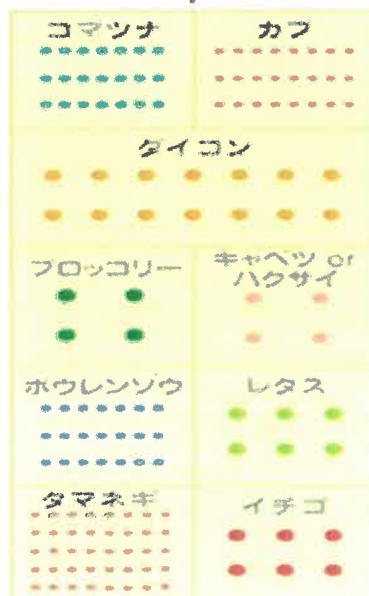
春夏

4 北側



秋冬

4 北側



3. 病害虫防除のポイント

病害虫の発生しない環境づくり

- ①ビニールマルチや敷きワラをする
- ②周囲の除草を徹底する（害虫の巣をつくらせない）
- ③輪作体系（連作障害の回避）
- ④土づくり、排水対策の実施（根張りをよくする、根腐防止）
- ⑤病気や害虫に強い品種の選定

主な野菜の防除農薬と対象病害虫

作物名	栽培管理のポイント	病害虫名	対象農薬名			
トマト	梅雨明けに尻ぐされが発生することがあるので、事前にカルシウムを葉面散布。アブラムシ・疫病に注意。	灰色かび病	アミスター20フロアブル	スミレックス水和剤	ポリオキシAL	ダコニール1000
		疫病	ジマンダイセン水和剤	ダコニール1000	カスミンボルドー	
		葉かび病	アミスター20フロアブル	ダコニール1000	ポリオキシAL	
		アブラムシ類	アドマイヤーI粒剤	アグロスリン乳剤	アドマイヤー水和剤	モスピラン水溶剤
ナス	乾燥した日が続く場合、ハダニの発生に注意。風通しが悪く高温多湿の条件でうどんこ病や黒枯病が発生しやすいので、古葉の除去をこまめに。	うどんこ病	モレスタン水和剤	トリフミン水和剤	サンヨール	
		灰色かび病	ダコニール1000	ロブラール水和剤	スミレックス水和剤	ゲッター水和剤
		アブラムシ類	アドマイヤーI粒剤	アグロスリン乳剤	アドマイヤー水和剤	モスピラン水溶剤
		ハダニ類	ピラニカEW	コテツフロアブル	アフーム乳剤	
キュウリ	べと病・うどんこ病が発生しやすいので、早めの防除が肝要。薬剤散布の際は、葉の裏までしっかり薬剤がかかるようにする。	べと病	ダコニール1000	カスミンボルドー	ジマンダイセン水和剤	
		疫病	ジマンダイセン水和剤			
		うどんこ病	ダコニール1000	モレスタン水和剤	アフエットフロアブル	アミスター20フロアブル
		炭そ病	ジマンダイセン水和剤	ダコニール1000	オーソサイド水和剤80	
		アブラムシ類	アドマイヤーI粒剤	モスピラン水溶剤	アグロスリン乳剤	スミチオン乳剤
スイカ	果実肥大期と梅雨が重なるため、炭そ病やうどんこ病が発生しやすい。	炭そ病	ジマンダイセン水和剤	ベンレート水和剤	アミスター20フロアブル	
		つる枯病	ジマンダイセン水和剤	ダコニール1000	ロブラール水和剤	
		うどんこ病	モレスタン水和剤	カスミンボルドー	ストロビーフロアブル	ラリー水和剤
		アブラムシ類	アクタラ粒剤5	モスピラン水溶剤	アグロスリン乳剤	アドマイヤー水和剤
スイートコーン	アワノメイガに対しては、糸抽出期とその7日後頃に2回散布すると効果的に防除できる。	アワノメイガ	ダイアジノン粒剤5	バダン粒剤4	アグロスリン乳剤	トレボン乳剤
		アブラムシ類	アグロスリン乳剤	アデオン乳剤	オルトラン水和剤	
ネギ	梅雨後の高温期に過度な土寄せを行うと白絹病や褐色腐敗病の原因となる。	べと病	ジマンダイセン水和剤	ダコニール1000		
		さび病	ジマンダイセン水和剤	ラリー水和剤	アミスター20フロアブル	
		黒斑病	ジマンダイセン水和剤	アミスター20フロアブル	ポリオキシAL水和剤	
		ハモグリバエ	ダントツ粒剤	アグロスリン乳剤	ダントツ水溶剤	アクタラ顆粒水溶剤
	アザミウマ	ダントツ粒剤	アグロスリン乳剤	プレオフロアブル	ディアナSC	

劇物 = 毒物劇物購入時は押印が必要です。購入の際は、必ず印鑑をご持参ください。
 予防剤 = 予防剤 + 治療剤 =

※農薬を混用する場合、水溶剤→展着剤→乳剤・フロアブル剤→水和剤の順で溶かします。
 ※使用前には、農薬のラベルに書かれている適用内容を確認し、散布できる作物や使用量・濃度、使用時期、そして成分ごとに定められている総使用回数を必ず守って使いましょう。
 ※殺虫剤は基本的に、害虫に直接かかるか、作物に付着したり浸み込んだものを害虫が食べたりして効果が出ます。隠れていて薬液にかからなかった害虫には効果がないので、葉裏までムラなく散布しましょう。

4. 土づくり

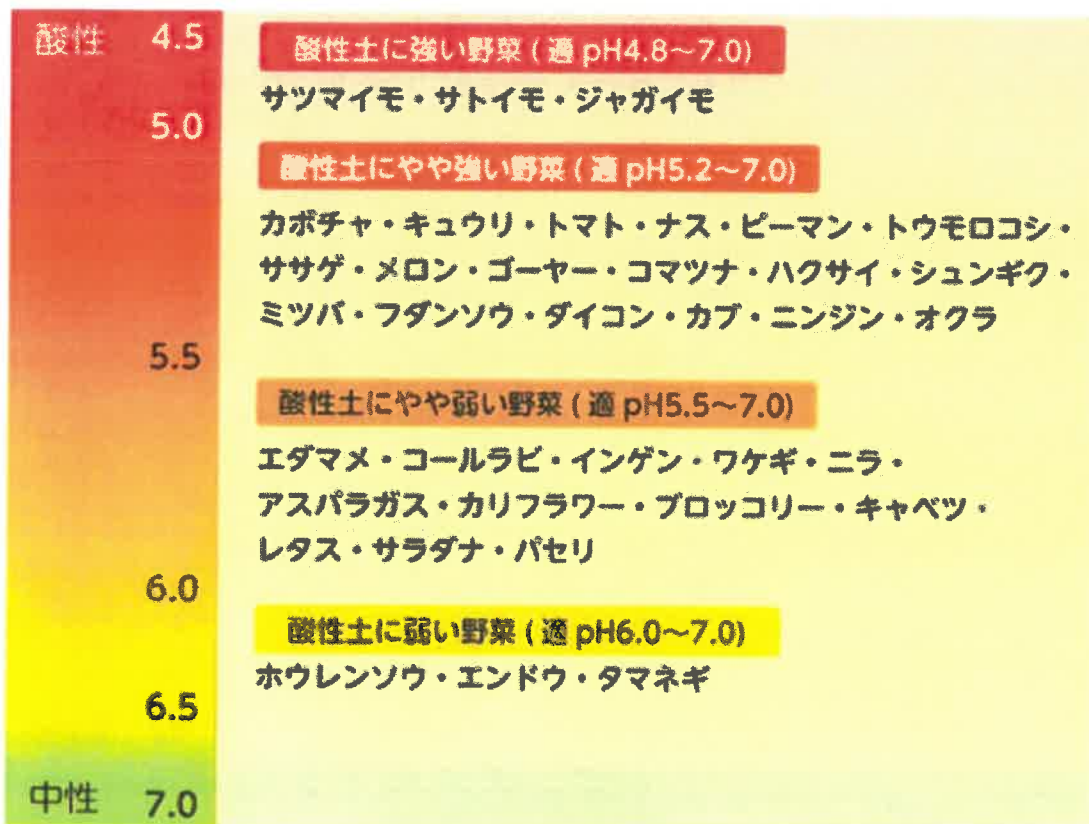
良い土壌とは？

- ①水はけと通気性がよい
- ②保水性がある
- ③土の酸度が適正である
- ④肥沃に富む
- ⑤病原菌や害虫が少ない

作物の好適生育 pH

野菜の種類によって適正な酸度は異なるが、pH6.0～6.5 を目標に矯正する。

酸度矯正の目安：酸性土壌を中和するときは、1 m²の面積を 10cm の深さで耕す場合、消石灰を 80～100g、または苦土石灰・有機石灰（かき殻）を 100～150g 耕すと酸度が「1」上がる。



有機物の効果

- ・土の団粒化促進⇒土の保水性・排水性を持続
- ・土中の微生物のエネルギー源となって、有機物が分解され、チッソ・リン酸・カリなどの元素になって野菜に吸収される。吸収されずに余った養分は、土中の微生物が吸収して一時的に貯蔵される。
- ・肥料をやりすぎた時、肥あたりを和らげる働きをする。また、有機物から出る有機酸や腐植酸といったものが、野菜の生育を促す。

肥料の5大要素の特長

①窒素 (N)

植物を大きく生長させる養分。特に葉を大きくするため、**葉肥**と言われる。多すぎると徒長して軟弱になり、病害虫に侵されやすくなる。足りないと発育が悪く（大きく育たない、収量が少ない、品質がよくないなど）なる。

②リン酸 (P)

花肥や**実肥**と言われ、開花や結実に不可欠の養分。多すぎると、鉄 (Fe)、マグネシウム (Mg)、亜鉛 (Zn) を欠乏させ、足りないと発育不良から開花や結実の遅れ、子実の品質や収量の低下がみられる。

③カリ (カリウム) (K)

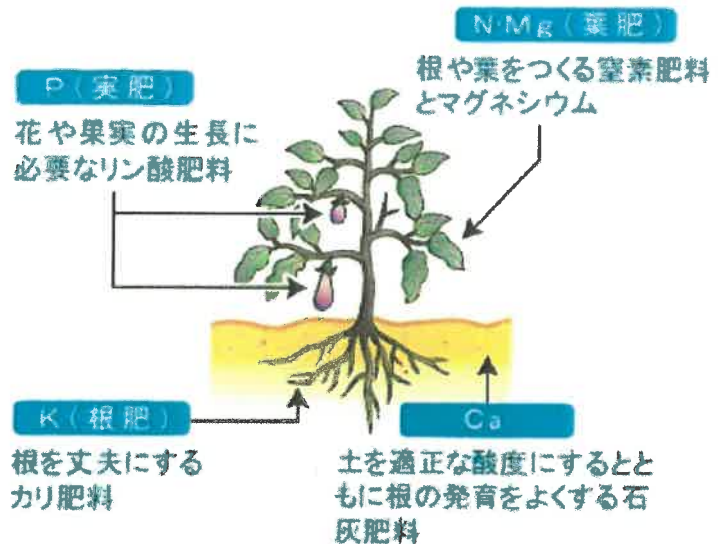
主に根の発育に関係するので、**根肥**と言われる。水溶性のため流亡しやすいため、少しずつ追肥すると効果がある。不足すると枯れ葉や落葉が早く見られ、病気にかかりやすくなる。

④カルシウム (石灰)

畑の土は徐々に酸性に傾きやすいので、土の酸度 (pH) に応じて作付け前に必ず混ぜるとよい。土を中性に近い状態にしておくと、根張りがよく、土壤微生物の有益な菌を増やすことができる。

⑤マグネシウム (苦土)

葉緑素の主成分なので、不足すると光合成の働きが悪くなる。



養分欠乏症

肥料の中の特定成分が不足することによって起こる症状

N
チッソ



葉の色が淡くなり、小さくなる。下葉や古い葉から発生する

Ca
カルシウム



新葉の先端が黒ずむ。またトマトなどの果実の尻腐が黒化する

P
リン



葉にアントシアニンが発生し、紫がかった色になる

Fe
鉄



若い葉の葉脈間が淡緑色から黄、白色になる

B
ホウ素



葉がもろくなり、茎に亀裂が入る。キュウリなどの果実はヤニを積りて軟化する。ダイコンは内部が褐色になる

K
カリウム



下葉から発生し、葉の縁が黄褐色に変色し、枯れる。茎の伸長、果実の肥大が不良になる





Mo
モリブデン



茎が萎縮し、葉の縁がめくられて杯のようになる

マルチの効果

- ・地温を高め、発芽や根の活動を良くする
- ・水分の蒸散を抑える
- ・雑草防止
- ・病虫害防除

色	目的／特徴	主な作物	地温上昇	雑草防止	害虫の飛来防止
透明 	太陽光の透過率が高く、マルチの中で最も地温上昇効果が高い。春先の用途が多い。ただし、光は通すため雑草の防止はできない。	サトイモ、インゲンなど高い地温を好む作物	◎	-	-
黒 	光を通さないため、雑草防止効果が高い。冬場は地温を保温する効果がある。一年中、さまざまな作物に使用できる。	ホウレンソウ、タマネギ、サツマイモなど	○	◎	-
シルバー 	光の反射で果実の着色をよくする効果とアブラムシ忌避効果がある。そして、地温の上昇を抑える効果もある。	レタス、ハクサイ、ダイコンなど	-	○	◎
銀ストライプ黒 	基本的には「黒マルチ」と同様の効果が期待できる。銀のストライプによって害虫の飛来防止にも効果がある。	トマト、トウモロコシ、ナス、キュウリなど	○	◎	○

◎：効果大 ○：効果あり -：効果なし

5. 良い苗の条件

「苗半作」というように、苗の良し悪しが植付け後の生育に影響します。

良い苗の条件

- ・茎が太い。
- ・節間が短く、徒長していない。
- ・葉が大きく、厚く、色が濃い。
- ・病虫害に侵されていない。
- ・子葉がしっかりついている。
- ・根鉢が大きく根の量が多い。
- ・根の色が白く、老化していない。

6. 野菜のタイプに3つの施肥型がある

尻上がり型

元肥を少なめにし、または、深めに入れる。

追肥（待ち肥）で尻上がりに効かせるように施肥する。

前半に生育を抑えないと、収量低下やツルぼけしやすくなる。

[スイカ・カボチャ・メロン・トウガン・シロウリ・ダイコン・ニンジン・ゴボウ 等]

中間型

尻上がり型とコンスタント型の中間型

[トマト・イチゴ・トウモロコシ・エンドウ・アスパラガス 等]

コンスタント型

肥効を安定して要求する作物。

元肥を深めに施し、追肥を早めに施す。

茎葉の成長に支えられながら、収穫部の肥大等が進行する作物。

[ナス・キュウリ・ピーマン・ネギ・インゲン・セロリー 等]

中間型

コンスタント型と先行逃げ切り型の中間型

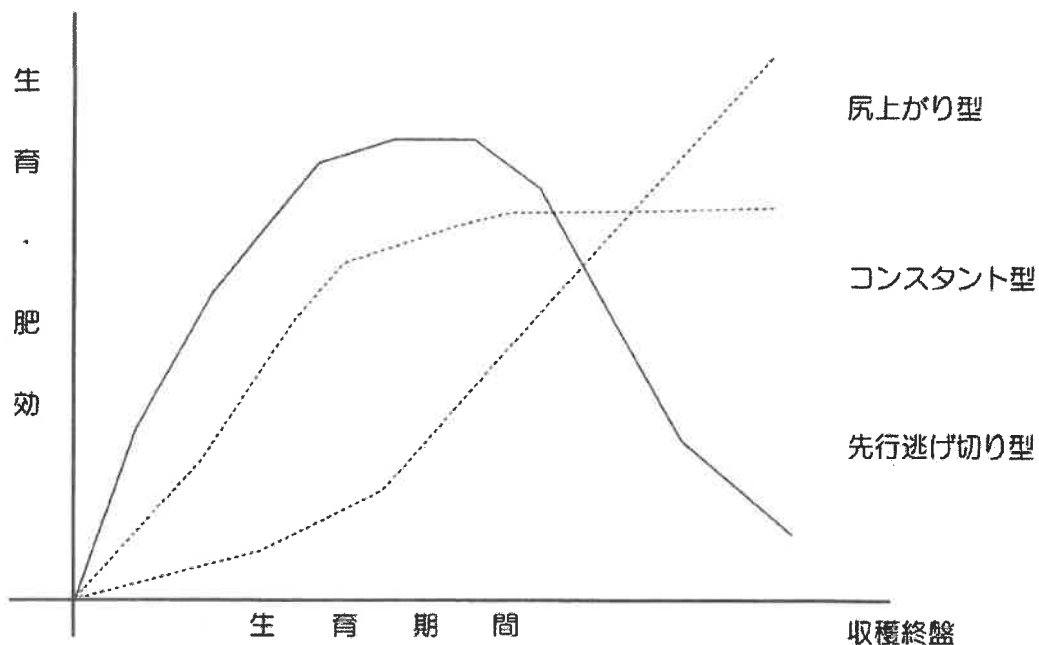
[キャベツ・ハクサイ・ブロッコリー・タマネギ・サトイモ・ナガイモ 等]

先行逃げ切り型

元肥主体で表層に施し、後半にチッソ肥効が出ないようにする。

茎葉がしっかりし、その後、収穫部が肥大してゆくもの。

[ジャガイモ・サツマイモ・コカブ・レタス・ホウレンソウ]

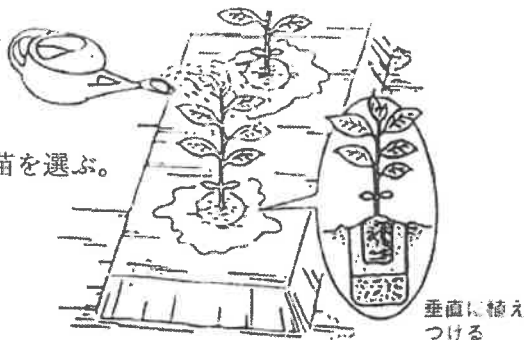


ナスの栽培ポイント (ナス科)

原産地 インド東部

◇植える時期

○霜の心配が無くなった時期 (4月下旬～5月中旬)



◇苗の準備

- 苗は無病で健全葉が5枚以上あり、がっちりした苗を選ぶ。
- 10㎡当たり7本の苗を準備する。
- 連作になる場合は、接木苗を利用する。

◇品 種

- 千両2号が主に普及しています。調理にも漬物にもそつなく使える。
(樹勢は旺盛・開張性・伸長性が高い)
- みずナスは、実が柔らかく調理に向く。
- 竜馬ナスは、主に漬物に使用される方が多い。

◇肥料の準備 (10㎡当たり)

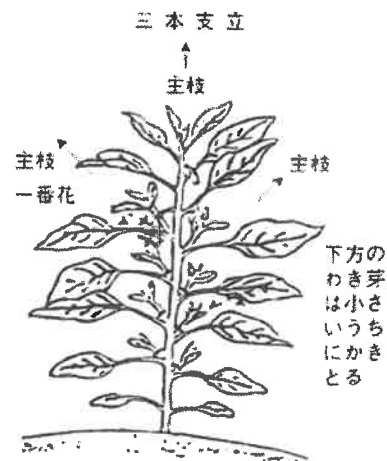
基肥		追肥	
完熟堆肥	20kg	や さい 5 4 0	1.2kg
苦土石灰	1.5kg	(5回に分けて施肥)	
発酵鶏糞	3kg	(1回当たり200～250g)	
油 か す	1.5kg	(生育を見て施す)	
そさいS1号	1.5kg		
有機重焼燐	0.4kg		

仮支柱



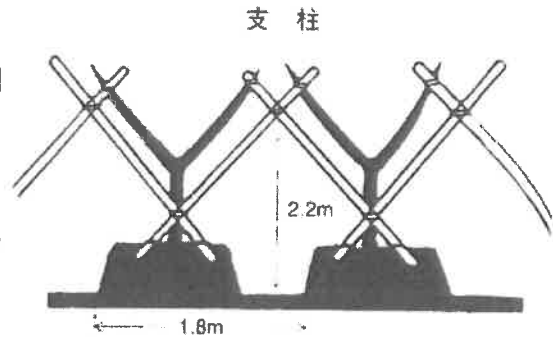
◇植え方

- 畑は排水のよい圃場を選ぶ。
- 完熟堆肥を十分に施し、できるだけ早めに深く耕す。
- 生育期間が長いので、肥料は切らず追肥を行う。
- 畝幅は180cmで株の間隔は60cm以上の1条植とする。
- マルチングする場合は、植える5～7日前に行いあらかじめ地温を上げておく。
- 植え付けは、曇天か夕方の風の無いときに植える。
(降雨後の植え付けは避ける)
- 植えるときはあまり深植にならないようにする。
- 植えるとき、根を強く抑えないこと。
- 植え付け後、土鉢に水をかけて、土を落ち着かせる。
- マルチングの植穴部分に風が入らないように土で覆う。



◇トンネル管理をする場合

- 定植後は保温に努め、活着の促進を促す。
- トンネルの除去は5月下旬から6月上旬頃を目安。
(トンネル期間のメドは約1ヶ月間位とする)
- トンネル期間中は高温に注意し、換気をする。
- トンネル除去の4～5日前から外気に徐々に慣らす。



◇植え付け後の管理

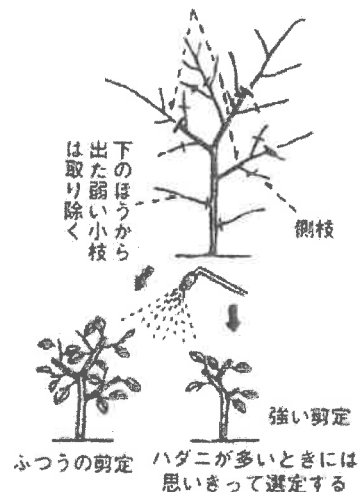
- トンネル除去後に速やかに支柱を立て倒伏しないようにする。
- マルチングの下の水分が少なくなると、肥料吸収が悪くなり果実の艶が落ちたり果皮も固くなり品質・収量共に落ちるので、圃場が乾いてきたら早朝灌水する。
(乾燥時は5～7日間隔で2～3回)
- 一番花を見たら3本仕立ての準備をする。
- 日当たり・風通しを良くするために開帳V字型に誘引をする。
- 定植1ヶ月位より、下の老葉を除去し病虫害の発生防止と、通風と採光をはかる。葉は圃場の外で処分する。
- 枝が混み合ってきたら内側の日当たりの弱い枝を整理し中まで日が差し込むようにする。
- 追肥は花色・花の柱頭の状態を見ながら遅れないように施す。
(開花位置の上に常に完全展開葉が3～4枚があること)
- 次第に実のつき方が悪くなってくるので、思い切って剪定するのもよい。
- 更新剪定は、7月下旬頃に内部の混み合った枝、病虫害のついた枝葉を切除する。
(根の周りを耕し施肥する)



◇病虫害防除

- 植え付け時にはネキリムシ等に侵されない様、植穴に薬剤散布し土と混和し植える。
- アブラムシやダニ類が付きやすいので早期発見につとめ、見つけ次第葉の裏までていねいに防除する。
- 梅雨時期に、うどんこ病・灰色かび病等が発生しやすいので注意する。
- 農薬散布前には必ず作物を収穫してから散布する。
- 農薬散布をする際、その薬が該当病虫害に合う物か、散布倍率、収穫何日前まで使える薬か等をよく確かめて散布する。

更新剪定 3本仕立てになっている主枝を切る



◇収穫

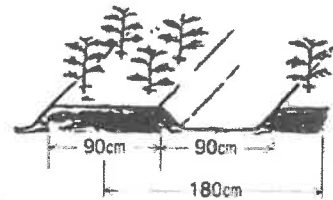
- 収穫は早朝、果実の冷たいうちに行う。
- 収穫した果実は、変質防止のため、直接風の当たらない涼暗所に保存する。
- 樹勢を弱らせないために、果実は取り遅れにならないよう早めに収穫する。
- 収穫時に黄変した下葉等はその都度掻き取り、圃場の外へ捨てる。

トマトの栽培ポイント (ナス科)

原産地 中南米

◇植える時期

○霜の心配がなくなった時期。(4月下旬～5月中旬頃)



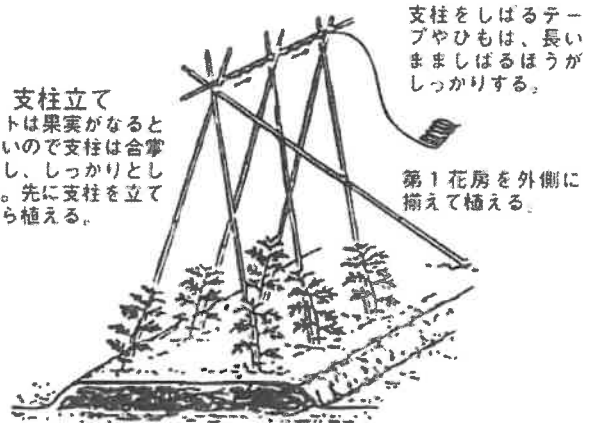
◇苗の準備

- 苗は無病で健全な葉が5枚ほどあって、がっちりした苗を選ぶ。
- 10㎡あたり15本ほどの苗を準備する。
- 連作になる場合は、接木苗を利用する。

◇品 種

- トマト (桃太郎)
完熟型の極早生。
1花あたりの収穫は少なめ。
- ミニトマト (ココ種など)
果実は小粒。
色や形は多様な品種が登場している。

支柱立て
トマトは果実がなると重たいので支柱は合掌式にし、しっかりとしる。先に支柱を立ててから植える。



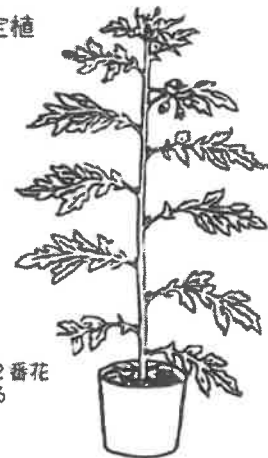
支柱をしるテープやひもは、長いまましるほうがりっきりする。

第1花房を外側に揃えて植える。

◇肥料の準備 (10㎡当たり)

基肥		追肥	
完熟堆肥	40kg	や	さい 5 4 0 計0.6kg
苦土石灰	1.2kg	①	第1果房が50円玉位
発酵鶏糞	1.5kg	②	第3果房が開花時
油かす	1kg	③	第3果房がパチンコ玉位
そさいS1号	0.6kg	④	第3回以降2週間後
有機重焼燐	0.8kg		
硫酸加里	0.4kg		

定植



定植時の苗
第1花房の1～2番花
が咲き始めるころ

◇苗の植え方

- 排水の良い土壌を選ぶ。
- 完熟堆肥など肥料を施し、早期に深耕しておく。
- 苗の間隔は50cmほど。畝幅は2条植えの場合180cm、1条植えは90cmが手ごろである。
- マルチをかける場合は、植える数日前にマルチかけをしておく。
- トマトは生育初期の肥料吸収が旺盛なため、過剰な基肥は逆効果である。(肥沃地では無肥料で植え付ける)
- 植え付けは曇天か、夕方に風のない時に植える。(水分過多になるので雨の後は避ける)
- 植えるときは、深植えにならないよう気をつける。
- マルチをかけた場合は、植穴まで土をかぶせること。(風が入らないようにする)
- 根にかけた土は手で押さえず、水をかけて落ち着かせる。(根痛みを防ぐ)
- 収穫時のことを考慮し、果房を通路側に向けて植えること。

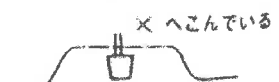
マルチに穴をあけて植え穴を掘り、アトマイヤー1粒剤を一穴あたり2g混和します。



へこんでいる

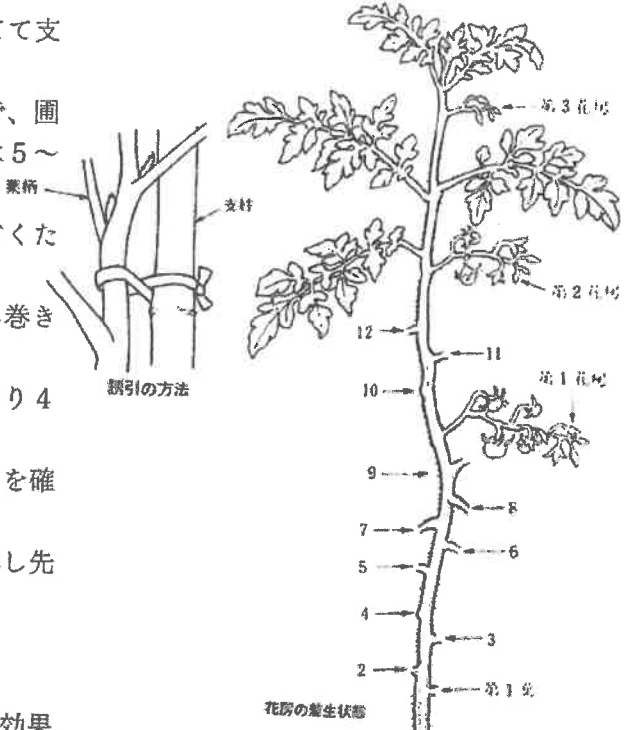


深うえ
*特に接ぎ木苗の場合は接ぎ木部分を土中に埋めないこと



◇植え付け後の管理

- 植え付け後、速やかに身長ほどの支柱を立てて支えてやる。
- 水分が極端に少なくなると肥効が落ちるので、圃場が乾いてきたら早朝灌水する。(乾燥時は5~7日ごとに数回)
- 脇芽はこまめに取り除く。(肥料の無駄を省くため)
- 肥効がよく茎が太めで、日中葉色が濃く少し巻き気味の時は、灌水と追肥を控える。
- 第1果が100円玉位になったら、1果房あたり4個ほどに整理してやる。
- 第1果房収穫後、その下の葉を摘除し風通しを確保する。葉は圃場外へ処分すること。
- 7段ほどに実がなったら、その上葉数枚を残し先端を摘心。これ以上伸ばさない。



花房の着生状態
普通の品種は本葉8~9枚で第1花房、以後3枚おきに次の花房がつく

◇ホルモン処理 (トマトーン剤など)

- トマトを確実に実らせて、草勢を安定させる効果がある。
- 1花房あたり3花程度開花し、花が真黄色のころが最適。
- 晴天の午前9時ごろまでに、希釈したホルモン剤を花にスプレーする。
- 20℃以下の低温時は50倍希釈、20℃以上の高温時は100倍希釈のこと。

◇病害虫防除

- 梅雨時期には病気が発生しやすいので、早期発見早期防除に努める。
- 葉っぱに白いカビが生える、うどんこ病などが代表的である。
- 必ず食べごろのトマトを収穫してから、薬剤を散布すること。

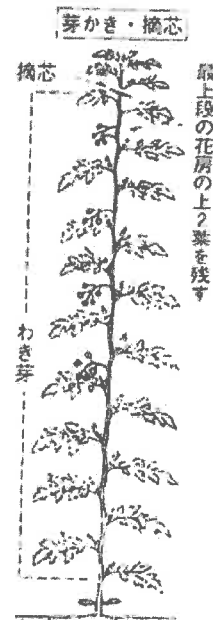
◇生理障害 (石灰分欠乏症)

- しり腐れ症はカルシウム不足の兆候。カルクロン(カルシウム剤)200倍の葉面散布が効果的。(3回散布)

◇いよいよ収穫

- 鮮度保持のため、早朝におこなうこと。
- その際、黄色くなった下葉などは摘んで圃場外へ処分すること。

○わき芽が大きくならないうちに摘芽を行います。



○1花房当たり4~5果に整理します。



キュウリ栽培のポイント (ウリ科)

原産地 インド西部 (ヒマラヤ地方)

◇栽培作型

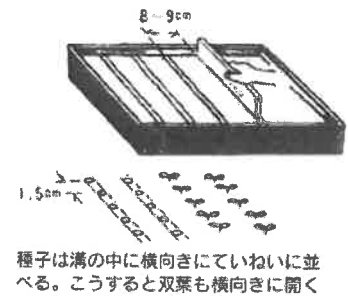
月	3			4			5			6			7			8			9		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
露地普通栽培	○-----○-----△△-----□-----□																				
	○は種			△定植																	

◇植える時期

○一般的に霜の心配が無くなった時期 (4月下旬～5月中旬)

◇苗の準備

- キュウリは果菜類の中でも最も生育期間の短い野菜です。
- 苗は自分で育苗するか購入苗により栽培する。
- 自分で育苗する場合は、園芸専用加工床土を利用する。
- 苗は無病で健全葉が3.5～4枚程度で、がっちりした苗を運ぶ。
- 10㎡当たり16本の苗を準備する。



◇品 種

- 白イボ系・黒イボ系・四葉系・地這い系等がある。
- 最近では白イボ系のものが主に作付けされている。

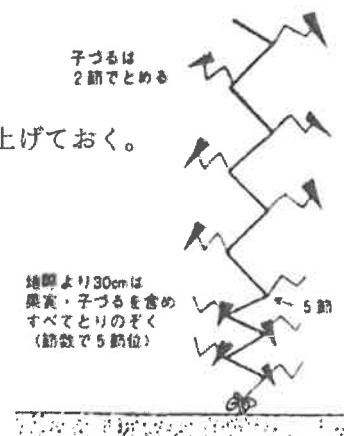
◇肥料の準備 (10㎡当たり)

基肥	施肥量	追肥	施肥量
完熟堆肥	20kg	や さい 5 4 0	1 kg
苦土石灰	1.2kg	(5回に分けて施肥) (生育を見て施す)	
油 か す	1 kg		
そさいS1号	0.6kg	追肥の目安は収穫始めより 開始15日間隔で施肥する	
有機重焼燐	0.3kg		



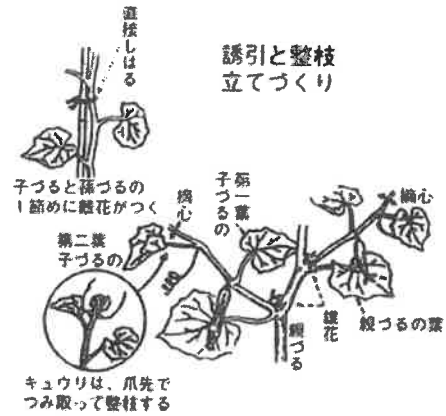
◇植え方

- 畑は排水のよい圃場を選ぶ。
- 完熟堆肥を十分に施し、できるだけ早めに深く耕す。
- 畝幅は120cmで株の間隔は45～50cm以上の1条植とする。
- マルチングする場合は、5～7日前に行いあらかじめ地温を上げておく。
- 植え付けは、曇天か夕方の風の無いときに植える。
(降雨後の植え付けは避ける)
- 植えるときはあまり深植にならないようにする。
- 植えるとき、根を強く抑えないようにする。
- マルチングの植穴部分に風が入らないように土で覆う。



◇トンネル管理

- 定植後は保温に努め、活着の促進を促す。
- トンネル被覆の場合は温度管理に注意する。
(トンネル内の昼温25~28℃・夜温10℃以上を目安)
- トンネルは霜被害回避のつもりで短期間だけにする。
- トンネル除去の4~5日前から外気に徐々に慣らす。



◇植え付け後の管理

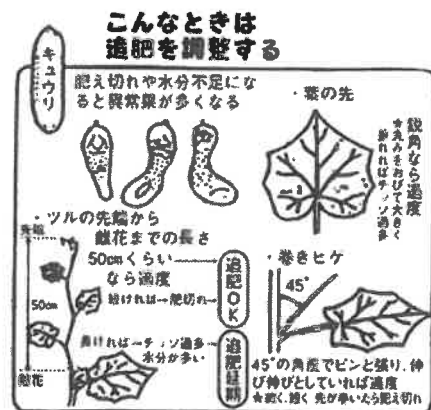
- トンネル除去後に速やかに支柱を立て倒伏しないようにする。
- マルチングの下の水分が少なくなると、肥料吸収が悪くなり、果実の艶が落ちたり果実が曲がり果・変形果の原因となり品質低下・収量共に落ちるので、圃場が乾いてきたら早朝灌水する。
(肥料不足も同様な症状が現れるので注意する)
(乾燥時は5~7日間隔で十分に与える)
- 親づるとは誘引し、下4~5節より出た子づるとは掻き取り、その上から出る子づるとは2節を残し先を摘心し混み合わないようにする。
(親づると一本仕立て)
- 古葉・病葉や新葉にかぶさる葉を、1回当たり2~3枚程度掻き取り、通風と採光をはかる。
- 梅雨時には十分に排水に努める。
(排水不良は根腐れや、青枯れ病、疫病の発生につながる)
- 肥料過多は病気とにがみの発生源につながるので注意する。
- 風の強く当たるところでは周りに防風ネットを張り保護する。
- 株が疲れてきたら果実を若採りした後追肥する。

敷きわらにはこんな効果が

- 土壌の乾燥防止 ●病害虫の防止
- 雑草防止 ●土のはね返り防止
- 地温の上がりすぎ防止

◇病害虫防除

- 植え付け時にはネキリムシ等に犯されないように、植穴に薬剤散布し土と混和したところに植える。
- 梅雨時期・樹勢弱りにうどんこ病・べと病・アブラムシ等が発生しやすいので注意する。
- 農薬散布前に必ず収穫する。
- 農薬散布をする際、その葉が該当病害虫に合う物か、散布倍率、収穫何日前まで使える薬か等をよく確かめて散布する。



◇収穫

- 収穫は早朝、果実の冷たいうちに行う。
- 収穫時に黄変した下葉等はその都度掻き取り圃場の外へ捨てる。

◇植える時期

○融雪後、霜の心配が無くなった時期に植える。

(生育開始温度10℃) (生育伸長適温15~20℃)

○春植えは3月下旬~4月上旬定植時期で、秋植の場合は8月下旬から9月上旬頃。

◇種イモの準備

○種イモは必ず無病のものを選ぶ。

○10㎡当たり2kgのイモを準備する。

○種イモは一個が40~50gのものを使う。

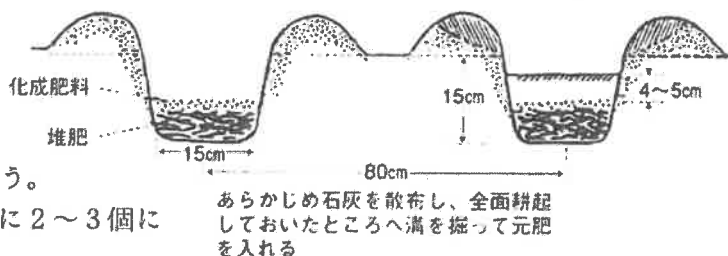
(大きい物はそれぞれ芽が残るように2~3個に切って植える)

○秋植えの種イモは、切断せずそのまま植える。

○休眠からさめ、芽が伸び出したものを使用する。

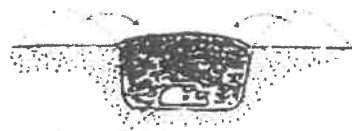
○種子伝染病を防止するため、ベンレート水和剤0.4%粉衣する。

切り口をある程度乾かすと、なお良い。



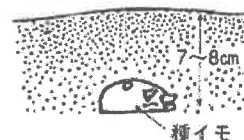
あらかじめ石灰を散布し、全面耕起しておいたところへ溝を掘って元肥を入れる

植えつけ



種イモ

覆土の厚さは7~8cm



種イモ



種イモは上部の方の芽が少し伸び始めたものがいちばんよい。種イモ用として売られているものが最適

◇品 種

○男爵=主に普及している。型崩れしにくいので煮物に向く。

○メイクイン=比較的保存が利く。煮込み料理に向いている。

○キタアカリ=食味は最高。そのかわり貯蔵が利かない。

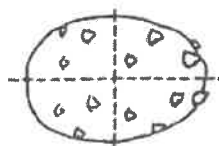
○秋植品種として、農林1号・デジマ・アンデス・ニシユタカ等がある。

○最近、この他に色々な品種が出回っているので、好みにより選んで植えると良い。

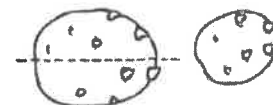
◇肥料の準備 (10㎡当たり)

	施肥量	追肥	施肥量
完熟堆肥	20kg	やさい540	0.4kg
苦土石灰	0.8kg	(5月上旬頃に施肥)	
そさいS1号	1.5kg		

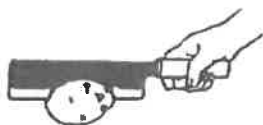
未熟堆肥は肌荒れ(そうか病等)の原因となるので、完熟した堆肥や苦土石灰は前作栽培時か前年秋に施し、予め耕しておく。



100g以上のイモは四つ切りに

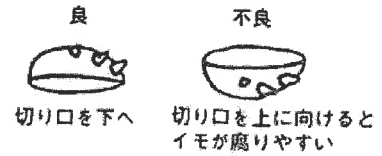


60~90gぐらいのイモは二つ切りに、それより小さいイモはそのまま。伸びだしている芽が、どの切片にもつくように包丁で切断する

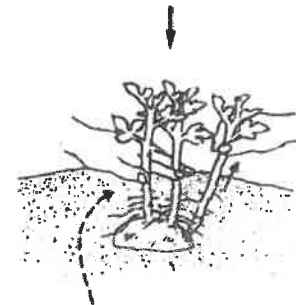


◇植え方

- 畑は必ず排水のよい圃場を選ぶ。
- 完熟堆肥を十分に施し、できるだけ早めに深く耕しておく。
- 生育期間が短いので、肥料は基肥重点とする。
- 畝幅が80cmで株の間隔は30cm以上の1条植とする。
- 植えるときは、種イモの芽を上にして覆土7~8cmになるように植える。
(害虫に侵されないように薬剤を土と混和しておく)
- 植えるとき、あまりにも深植にならないようにする。



芽かき



たくさん芽が伸びてくるので勢いのよいもの2本を残して他は取り除く。種イモを引き上げないように株元を押さえ、斜めの方向にかき取るとよい

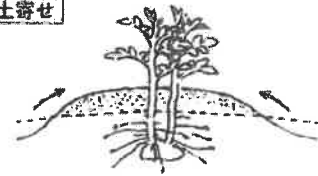
◇植え付け後の管理

- 芽が揃ったら早めに1株2~3本に仕立てる。
(草丈10~15cmの頃=追肥・土寄せをする)
- 芽かきするときに、種イモが動かないように手で抑えてとる。
- 芽かき後、追肥・土寄せをする。(5月上旬頃)
(イモ付きを良くし、倒伏防止・雑草抑制・病虫害抑制)
- 2回目の土寄せは、主茎に花蕾が見え始めた頃。(5月下旬)
イモ付きを良くし、日焼けを防ぐため行う。
- 多量の培土はかえって生育を一時的に抑制する。

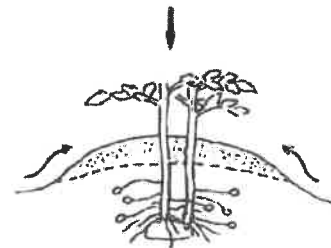
◇病害虫防除

- アブラムシやテントウムシダマシが付きやすいので早期発見・早期入念防除する。
- 梅雨時期に疫病等が発生しやすいので排水対策は念入りに。
それでも発生した場合は早期防除に努める。
- 農薬散布をする際、その薬が該当病害虫に合う物か、散布倍率、収穫何日前まで使える薬か等をよく確認して散布する。

土寄せ



芽が15~20cm伸びたとき株元に4~5cmの厚さに土を寄せる



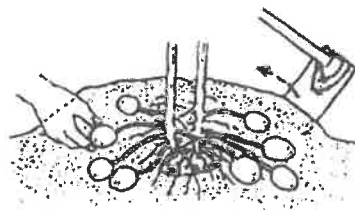
約半月後2回目の土寄せを4~5cmの厚さにおこなう。土寄せが足りないとイモの肥大を損ね、地上に露出して緑化し品質が悪化する

◇収穫

- 収穫は茎葉が黄変してから掘り取る。(肥料が切れてから)
- 収穫1週間前に茎葉を刈り取っておくと剥皮しにくい。
- 収穫は晴天で畑が乾いているときに掘り取る。
(太陽の下に放置せず、早めに屋内に運び入れること)
- 収穫時に黄変した茎葉等は圃場の外へ捨てる。

◇貯蔵

- 風通しの良い日陰にて乾燥させる。
その後、冷暗所で貯蔵する。



イモが肥大したら探り掘りし、初ものの味を楽しむ。完全に肥大したころ鍬を入れて掘り起こす

ブロッコリーカリフラワー栽培のポイント(アブラナ科) 原産地 地中海東部

◇栽培作型

月	3			4			5			6			7					
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
春まき栽培	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	□	□	□			
月	6			7			8			9			10			11		
旬	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上
夏まき栽培							○	○	○	△	△	△	△	△	△	□	□	□
	○トンネル			○は種			△定植						□収穫					

◇特徴

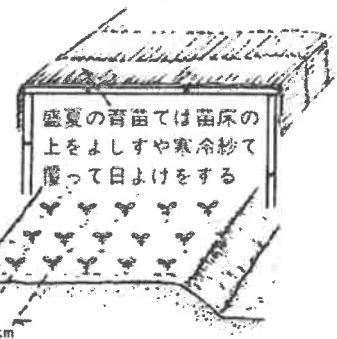
- 春蒔き育苗は、低温のためハウス利用し、こまめな温度管理が必要。
- 夏蒔き育苗前期は、高温多湿・後半は高温乾燥条件になるので育苗管理に細心の注意が必要。(低温に合わせないこと)
- 害虫や風害による葉の損傷を防止する。
- 外葉を大きく育てるため、肥料切れにならないように注意する。

本葉2枚のころ
苗床へ移植する



◇品種

- 春まき=おはようピクセル、しらたま5号等
- 夏まき=おはようピクセル、しらたま3号等
- 現在は、色々な品種が出回っていますが、種子袋の裏面に記されている内容を確認して選ぶ。



◇は種時期

- 種子は、ポット等に3粒位は種する。
(乾燥防止のため、覆土後新聞紙等で覆いをする)
- 早春は種はハウスを利用・夏蒔きは寒冷紗で遮光育苗する。
- 無病の床土を使う。
- 発芽を見たら、遅れないように新聞紙を取り除く。
- 健苗を育てるため、本葉1枚で1本立ちとする。
- 灌水は床土の乾き具合を見ながら、早朝に充分やる。
- 定植は本葉3~4枚程度を目標にがっちりとした苗を植える。
(育苗日数は約25~35日間)
- 育苗は5℃以下、25℃以上にならないように細心の注意をもって管理する。



本葉5-6枚の
苗に仕上げる

◇畑の準備

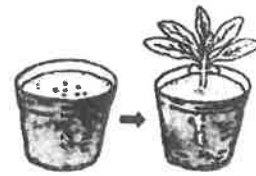
- 畑は排水のよい圃場を選ぶ。
- ブロッコリーを栽培しようとするところに予め完熟堆肥を施し深耕しておく。
- 土が乾いている時に、施肥・砕土・畝立てを一挙に行う。
- アブラナ科は3~4年空ける。
- 畝幅は150cm、高さ25cm以上とし排水効果の高い畝を作る。
- 圃場の周囲には、やや深めの排水溝を掘っておく。

○定植は、株間35cmで2条植とする。

◇肥料の準備 (10㎡当たり)

基肥主体の施肥をする。

施肥	基肥	追肥①	追肥②	追肥③
完熟堆肥	20kg			
苦土石灰	1.2kg			
有機重焼燐	0.4kg			
そさいS1号	1.5kg			
やさい540		0.3kg	0.3kg	0.3kg
		定植 7日目	①追肥後 15日目	初蕾始期



少ない本数でよければ、鉢に直接種子をまいて間引き苗に仕上げる

株元が少し高くなるくらいがよい

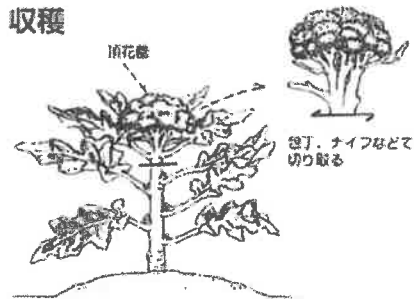


◇定植後の管理

- 雑草防除として、定植後、溝に除草剤を散布しておく。
- 畑が乾いている場合は、定植前に畝に充分灌水しておく。
- 植え付けは、曇天か夕方に行い、根締めとして植えた周りに灌水する。
- 植え付け後、欠株が生じたら速やかに補植をする。
- 植え付け後7日位たつと、生育が盛んになり第1回目の追肥をする。
- 2回目の追肥は1回目の追肥後15日位に施す。
- 3回目の追肥は発蕾始めた頃に施す。
- 追肥は直接葉にかからないように施す。



収穫



つぼみが適密により合つて、全体としてドーム型となつたところが適期

◇病害虫防除

- 植え付け時にはネキリムシ等に犯されないように、植穴に薬剤散布し土と混和したところに定植する。
- 春蒔きは暖かい時期の収穫となり、軟腐病にかかりやすくなるので注意する。

◇収穫

- ブロッコリー・カリフラワーの花蕾が10~12cm位になったら収穫する。
- 収穫が遅れると品質を著しく低下させるので注意する。
- 収穫は、朝の涼しい内に終える。
- 花蕾収穫後、株元に追肥し、側枝の発生を促し利用する。
- 病害虫回避のために、収穫が終了したら必ず、残った野菜を圃場外に出し整理する。



頂花蕾を収穫したあと追肥を十分施して側花蕾を伸ばし、順次収穫する

コマツナ・シロナ栽培のポイント (アブラナ科)

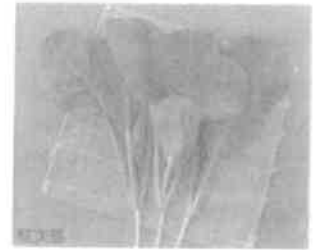
原産地 地中海沿岸・近東と中央アジア

◇栽培作型

月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
旬	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
春まき	○									
夏まき				○						
秋まき							○			
宮内菜 (折り菜)							○	○		△
	○は種			△定植			□収穫			

◇特徴

- 野菜の中で最も暑さ、寒さに強く一年中いつでも作りやすい。
- 誰にでも簡単に育てることが出来る。
- ビタミンAやカルシウムの含量が高い。
- 土壌に対する適応性が高く、連作障害も出にくい野菜です。
- 揃って発芽させることと、間引きを遅れないようにする。



◇品種

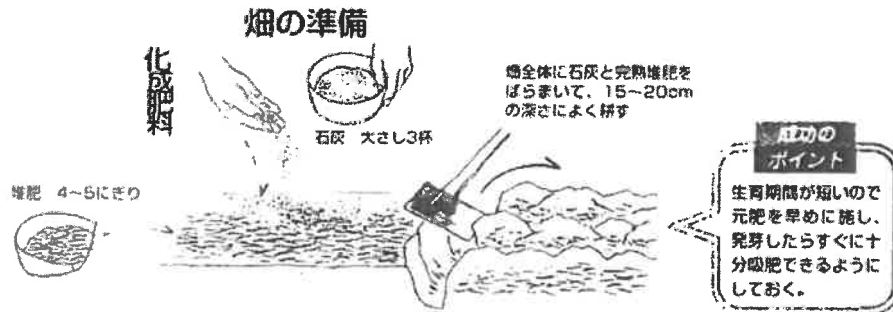
- 夏まきタイプは抽苔の遅い品種を選ぶ。
コマツナ=春・夏・秋まきと時期に合った品種を選ぶ。
シロナ =春・夏・秋まきと時期に合った品種を選ぶ。



地方色に富んだ品種も多いので好みに合わせて選ぶ

◇は種時期

- 露地まきは3月中旬～10月下旬まで順次は種出来る。
- は種量は、夏蒔きで、10～15ml/10㎡見込まれる。
(春・秋まきは、20ml/10㎡見込まれる)
- 蒔き溝は、15cm位、株間は5cmとし、は種する。
(覆土は0.5cm位とする)
- 10月下旬以降まきは、トンネル被覆栽培とする。



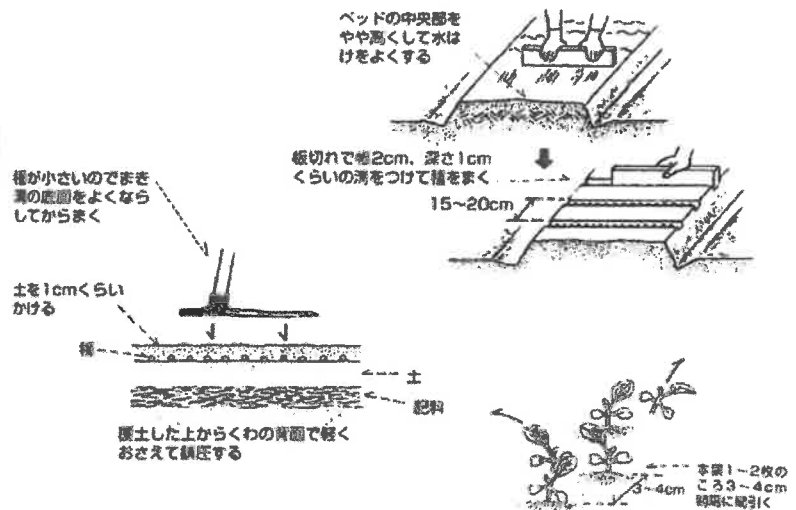
◇畑の準備

- 菜類は湿気を嫌うので、排水のよい圃場を選ぶ。
- 菜類を栽培しようとするところに予め（10日前）完熟堆肥を施し、深耕しておく。
- は種前に十分に床面に灌水し、は種床を湿らせておく。
- 土が乾いている時に、施肥・砕土・畝立てを一挙に行う。
- 畝幅100cm・高さ10cmで、雨が降った時に水たまりが出来ないようにする。
- 発芽始めに雨に打たれると、生育むらができるので、寒冷紗を畝上にべたがけをする。
- アブラナ科との作付は1～2年空けること。

◇肥料の準備（10㎡当たり）

基肥主体の施肥をする。

施肥	基肥	宮内菜基肥
完熟堆肥	15kg	15kg
苦土石灰	2kg	1.5kg
発酵け	1.5kg	1.5kg
有機重	0.8kg	1kg
そさい	0.8kg	1kg
やさい	0.2kg	0.2kg
		2回追肥



◇出芽後の管理

- は種後は十分に灌水し、発芽まで乾かさないようにする。
- 本葉が出てからは、畝が乾いてきたら灌水とする。
- 混み合っている所があれば、1葉位の時と、草丈が7～8cmの頃の2回間引きする。
- 強い雨に見舞われたら畑の排水を速やかに行う。
- 肥切れするようであれば、間引き後追肥を行い肥切れさせないこと。
- 追肥は直接葉にかからないように施す。



◇病害虫防除

- 高温時に畑に水を停滞させると、軟腐病にかかりやすくなるので注意する。

◇収穫

- は種後25日頃より、草丈15～20cmになったら順次収穫する。
- 収穫が遅れると品質を低下させるので注意する。
- 収穫は、朝の涼しい内に終える。
- 病害虫回避のために、収穫が終了したら必ず、残った野菜を圃場外に出し整理する。



通常草丈15～20cmくらいになったら一葉に葉を折り収穫するが、小さいうちから間引きながら収穫すれば間隔をのばすことができる

基本 ナス

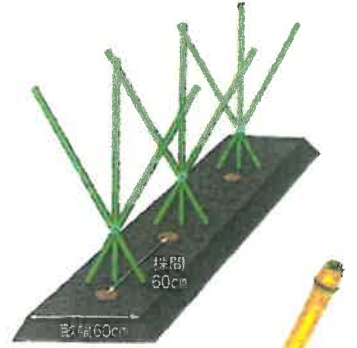
3本仕立て+更新剪定

3大メリット

- 生育初期にわき芽かきをするだけなので、わかりやすい
- メインの枝数が3本と多いため、一度に採れる実の数も多い
- 更新剪定で新しい枝葉が伸び、秋にも良質な実が収穫できる

支柱と支柱データ

支柱は、長さ150cmほどのものを使用し、1株当たり3本を交差させて立てる。



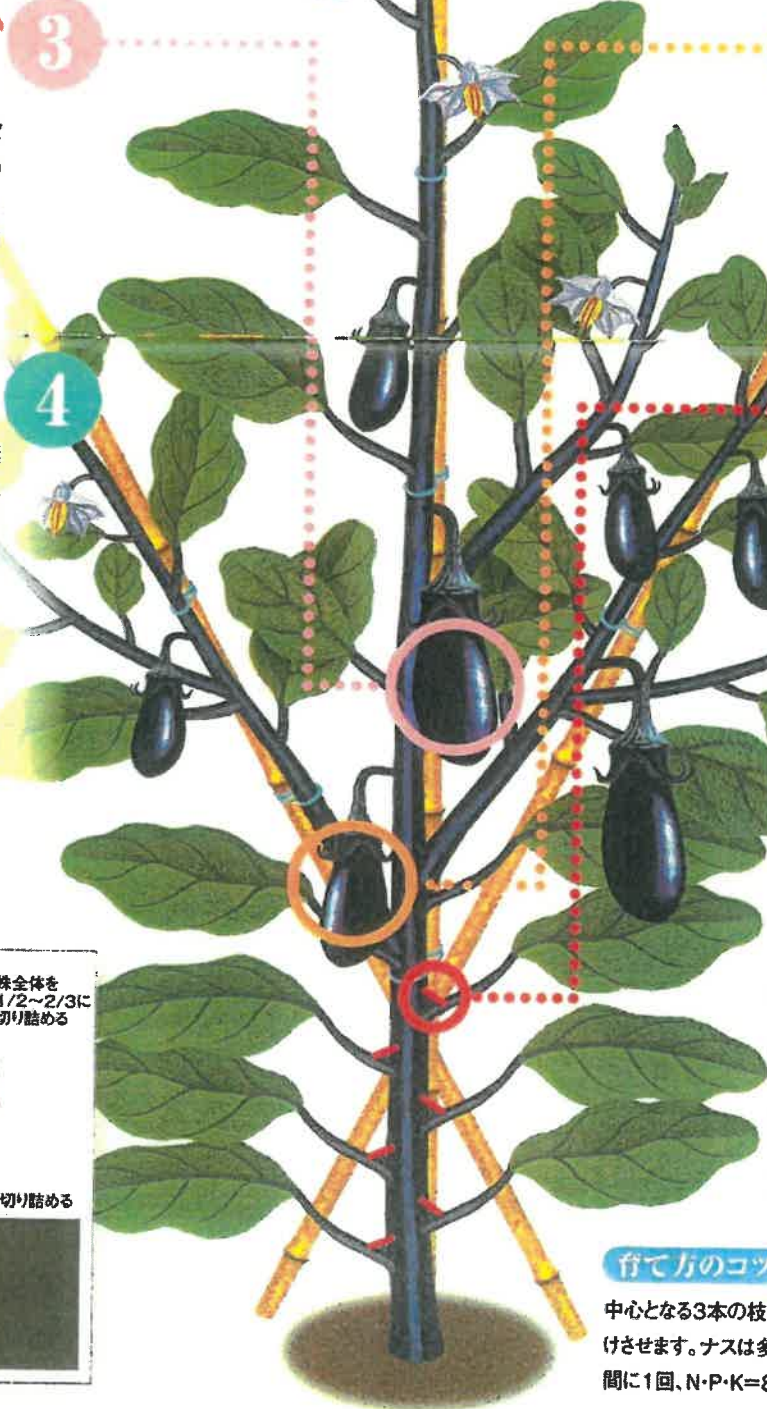
1 「ほけナス」にならないよう、適期に収穫を

収穫が遅れると、皮がかたくなり、中の種も熟して食味の悪い「ほけナス」になります。品種本来のサイズになったら、収穫しましょう。中長ナスなら、開花の20～25日後、長さ12cmほどが目安です。

2 更新剪定で、おいしい秋ナスをならせる

7月下旬ごろになると、枝葉が茂り、株の中まで日光や風が入りにくくなってきます。さらに真夏の高温や病害虫の被害も重なり、しだいに実つきが悪くなってくるので、株全体を1/2～2/3の大きさに切り詰めましょう。さらに株元から30cmほどの位置に、ぐるっと1回りスコップを差して、根も切り詰めます。作業後は、N・P・K=8・8・8の化成肥料なら30g/m²を追肥して生育を促します。新しい枝葉が伸び、秋には質のよい秋ナスがなります。

3



2

1 1～2番果は、早めに収穫する

まだ、株が大きく育っていないので、株の充実を優先して、1～2番果は早めに収穫します。主流の中長ナスなら、開花の15～20日後を目安に長さ10cm以下で収穫しましょう。

1

3 わき芽をかいて、3本仕立てにする

最初に咲く1番花の実が大きくなりだしたら、わき芽をかきます。勢いよい1番花の下のわき芽2本を残し、それより下のわき芽は、すべて取り除きましょう。支柱を立て、枝が伸びにつれ、3本の枝をひもで支柱に誘引していきます。

4



育て方のコツ

中心となる3本の枝から出てくるわき芽は、そのまま伸ばし、実をつけさせます。ナスは多肥を好むので、植えつけの2週間後から2週間に1回、N・P・K=8・8・8の化成肥料なら30g/m²を施しましょう。

基本 トマト 主枝1本仕立て

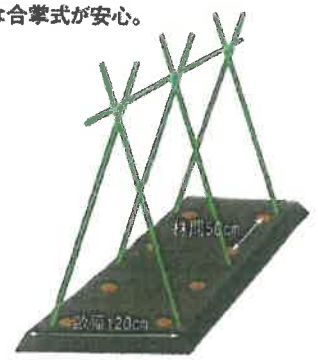
※大玉、中玉、ミニに向く

3大メリット

- わき芽をすべて摘むだけなので、仕立てやすい
- 風通しがよくなって、健全に育ちやすい
- 大玉、中玉、ミニとすべてに対応できる

畝と支柱データ

支柱は、長さ210cmほどのものを使用。直立式でもよいが、大玉トマトはイラストのような合掌式が安心。



主枝は、支柱の先切りで摘芯する

主枝が支柱の先端まで届いたら、主枝を切り取ります(摘芯)。切る位置は5段めの花房が目安。花房の上に葉を2枚残して摘芯します。摘芯することで養分が実に回って、充実します。

4

花房の上に葉を2枚残す

3

大玉は、実がたくさんついたら摘果する

大玉トマトの場合、1つの花房に6個以上の実がついたら、摘果をします。実がピンポン玉大のときに、いびつになりやすい1番果や、肥大しにくい先端の実から取って、1房当たり4~5個にします。こうすることで、実のサイズがそろいます。



すべてのわき芽をかく

葉のつけ根から、次々とわき芽が伸びてきます。少なくとも1週間に1回は株をよく見て、すべてのわき芽をかき取ります。



2

第1花房に確実に着果させる

大玉トマトで起きやすい、茎葉ばかりが茂って、実がつかない「つるぼけ」を防ぐためには、第1花房に着果させることが重要。栽培初期は、気温が低く、訪花昆虫が少ないうえに、花粉管の伸びが悪いので、手で花を揺さぶるか、ホルモン処理を行います。



育て方のコツ

花房の下のわき芽は勢いが強く、すぐに伸びてしまいます。よく注意して、小さなうちに摘み取りましょう。



トマトの実つきをよくするホルモン剤「日産トマトンスプレー」(住友化学園芸)

基本 キュウリ

親づる1本仕立て

3大メリット

- 株の日当たりと風通しがよくなり、健全に育ちやすい
- 子づるを摘芯するだけなので、管理が楽
- 横への広がりコンパクトなので、株間を狭くできる

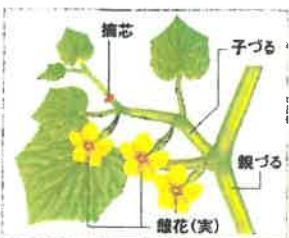
早めに収穫する

キュウリは生長が早く、実もあっという間に大きくなります。大きくしすぎると株が弱る原因になるので、早めに収穫しましょう。とくに株が小さい生育初期は、影響が大きいので最初の2〜3果までは、一般的な品種でも10〜15cmの長さで収穫します。その後も、長さ18〜20cmで収穫しましょう。



子づるは1〜2節を残して摘芯する

①でかき取った節より上から出てくるわき芽(子づる)は、1〜2節(葉を1〜2枚)を残して早めに摘芯します。そのまま伸ばすと、実がなりすぎてしまっ、よい実が採れなくなります。

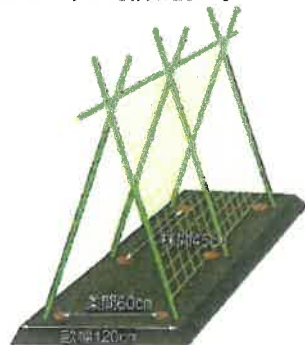


2



畝と支柱データ

支柱は、長さ210cmほどのものを使用する。合掌式にし、ネットを張るとよい。



育て方のコツ

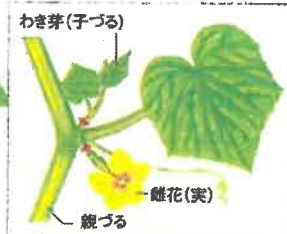
生育が早いので、肥料分は多く必要です。肥料不足は、尻曲がり果などの原因になるので、植えつけ後は2週間に1回、N・P・K=8・8・8の化成肥料なら30g/mを施しましょう。

4 支柱の先まで届いたら摘芯する

親づるが支柱の先まで届いたら、これ以上伸びないように親づるを摘芯します。

1 下から30cmくらいまでのわき芽と雌花を取る

風通しをよくして、病気を予防するために、株元から30cm(5〜6節めが目安)ほどは、わき芽(子づる)をかき取ります。伸ばしてしまうと、子づると親づるの見分けがつきにくくなるので、小さなうちに取りましょう。同時に雌花(実)も取ります。まだ株が小さいので、残してもよい実にならず、また実をならせると株に負担がかかるためです。



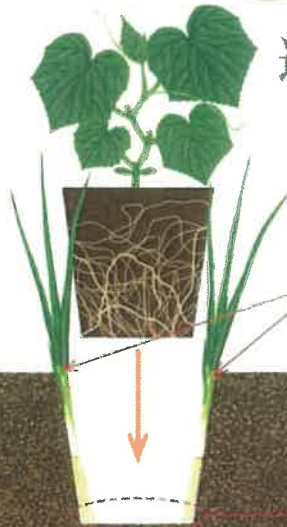
キュウリ × 長ネギ

病気
予防

拮抗菌が働いて 連作障害に強くなる

栽培の準備

- 土づくり
右ページと同様。
- 植えつけ
4月下旬～5月下旬に、
キュウリと長ネギの苗
を同時に定植する。
- ポイント
長ネギは、3月上旬に
ポットに種をまき、育苗
する。前年からの株
があれば移植する。葉
ネギでも効果は同じ。



キュウリだけでなく、
カボチャやスイカ、メ
ロンにも応用できる

キュウリの根鉢に接触
するように、長ネギを
左右に植えつける

根を穴底に広げると、
根の接触が増え、効果が
増す

植え穴は根鉢の大きさ

キュウリの代表的な連作障害
つる割病は、土壌中の病原菌に
よって起こります。まん延する
と株が枯れて、まったく収穫で
きなくなります。長ネギの根に
は、この病原菌を退治する抗生
物質を分泌する拮抗菌が共生し

ています。
そこで、キュウリの植えつけ
時に、根同士を接触させて長ネ
ギも植えつけます。
これは栃木県で古くから行わ
れてきたウリ科のユウガオと長
ネギの混植を応用したものです。

管理のコツ

- キュウリの栽培後、
長ネギは移植すると
よい。土寄せを行い、
軟白部を長くして、
晩秋に収穫する。

栽培の準備

- 土づくり
右ページと同様。
- 植えつけ
4月下旬～5月下旬に、
トウモロコシの苗を定
植し、同時にエダマメ
をまく。
- ポイント
トウモロコシは、定植
の30日ほど前に、育苗
を始める。エダマメは
極早生品種を選ぶと栽培
終了時期がそろって、
次作に移りやすくなる。

生育
促進

効率
利用

トウモロコシ × エダマメ

追肥が不要になり 育ちがよくなる



エダマメは、光がやや
弱くてもよく育つため、
トウモロコシの陰にな
っても栽培できる

エダマメは3粒まいて、
本葉1.5枚で間引いて
2株立ちにする

マメ科の根に共生する根粒菌
は、空気中の窒素を取り込んで、
土を肥沃にする働きがあります。
根粒菌には数多くの種類がいま
す。野菜の種類ごとに共生する
根粒菌も決まっています。土を肥
沃にする効果にも差があります。

エダマメの場合、その効果は大
きく、混植するとトウモロコシ
の生育促進につながります。
さらに、エダマメの根につく
菌根菌がトウモロコシにもつい
て、リン酸分などの養分を橋渡
しし、供給してくれます。

管理のコツ

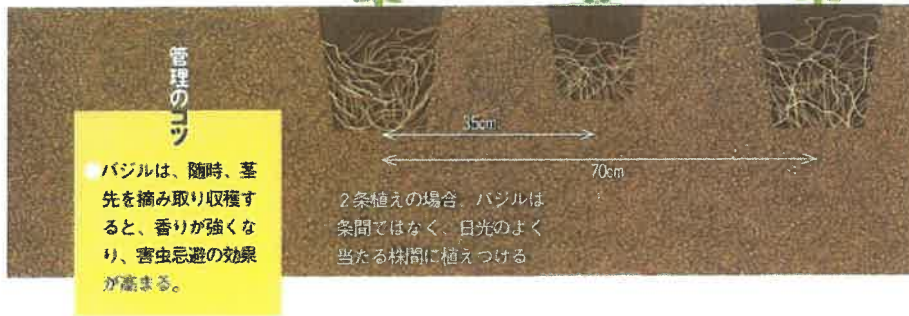
- 土が肥沃になるので、
追肥は不要。
- トウモロコシもエダ
マメも土寄せを行う
とよい。

栽培の準備

- 土づくり
右ページの場合と同様。
- 植えつけ
4月下旬～5月下旬に、
トマトの苗とバジルの
苗を同時に定植する。
- ポイント
スイートバジル種が一般的だが、煮こみ用トマトには紫バジル種が調理時によく合う。定植の30日ほど前に、種をまいて育苗する。



バジルは、トマトの株間に植えつける



管理のコツ

- バジルは、随時、茎先を摘み取り収穫すると、香りが強くなり、害虫忌避の効果が高まる。

2条植えの場合、バジルは条間ではなく、日光のよく当たる株間に植えつける

トマト×バジル

害虫忌避

強い香りが虫よけに役立つ

ともにアレロパシーの強い植物ですが、相性がよく、近くに植えてもよく育ちます。食材としても相性がよいのもおもしろいところです。

バジルの香りがトマトにつくアブラムシなどの害虫を忌避します。

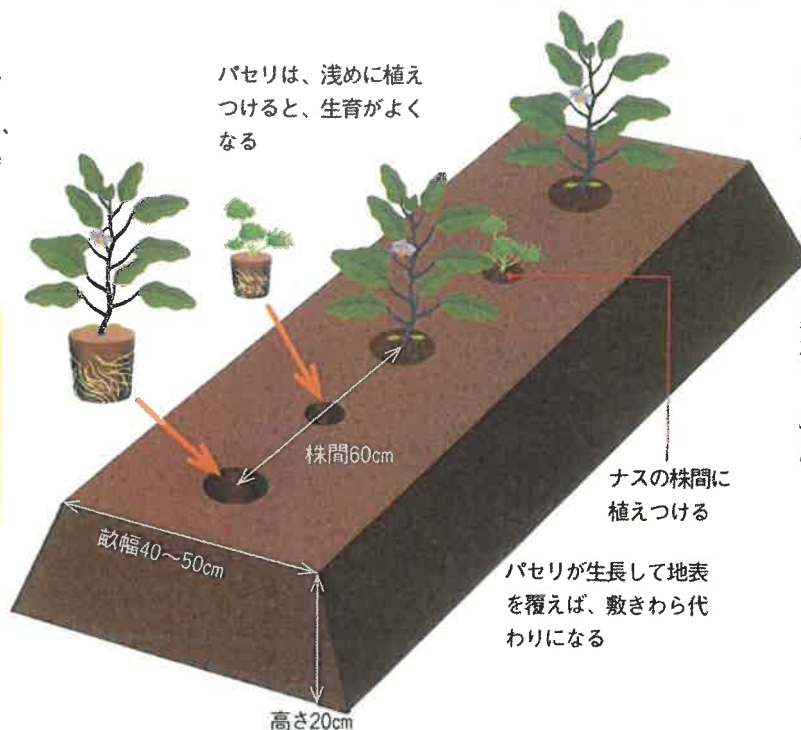
ただし、離しすぎるとバジルが大きく育つだけで、害虫よけにはなりません。逆に近くに植えすぎると、バジルがトマトの陰になって育ちが悪くなります。適切な距離で植えることが肝心です。

栽培の準備

- 土づくり
右ページと同様。
- 植えつけ
4月下旬～5月下旬に、
ナスとパセリを同時に
定植する。
- ポイント
パセリは3月中旬～下旬にポットに種をまき、育苗するとナスと同時に植えつけられる。

管理のコツ

- ナスは収穫が終わったら株元で切り、晩秋以降はパセリに日光をよく当てる。



パセリは、浅めに植えつけると、生育がよくなる

株間60cm

ナスの株間に植えつける

パセリが生長して地表を覆えば、敷きわら代わりになる

ナス×パセリ

害虫忌避
生育促進
効率利用

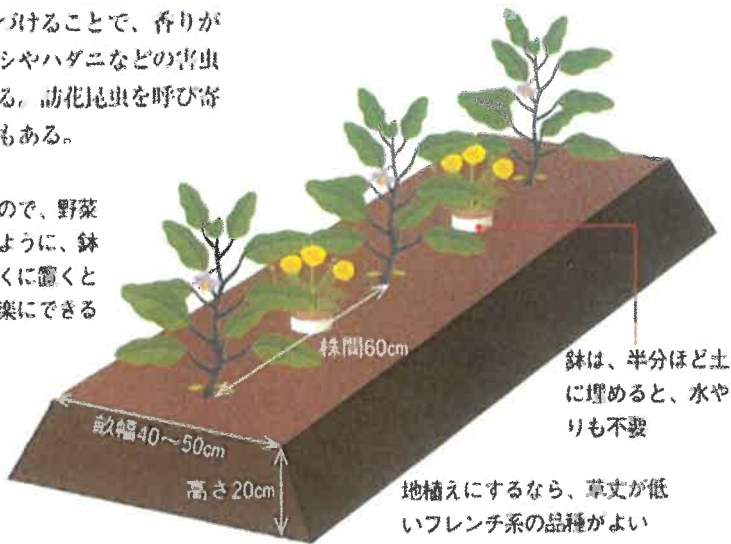
日陰でも元気に育ち
マルチ代わりになる

パセリはトマトと混植すると、枯れてしましますが、ナスの場合、同じナス科にもかかわらず、じつによい組み合わせとなります。パセリは夏場は日陰を好むので、ナスの日陰で元気よく育ちます。草丈は低く、畝の上を覆うように繁茂し、マルチ代わりになり、ナスの生育を助けます。また、パセリは、そのセリ科独特の香りで、ナスにつく害虫を忌避します。ナスもパセリも深根タイプですが、なぜか競合しません。

害虫を効果的に防除する

野菜に近づくことで、香りがアブラムシやハダニなどの害虫よけになる。訪花昆虫を呼び寄せる効果もある。

生育が旺盛なので、野菜と競合しないように、鉢植えにして近くに置くといい。移動も楽にできる



鉢は、半分ほど土に埋めると、水やりも不要

地植えにするなら、草丈が低いフレンチ系の品種がよい

訪花昆虫や益虫を呼び寄せる

畝や畑の一角にまとめて育てると、訪花昆虫を集めやすい。また、益虫のすみかとなるバンカープランツにもなる。

テントウムシやヒラタアブなどの天敵やミツバチやハナアブがふえる

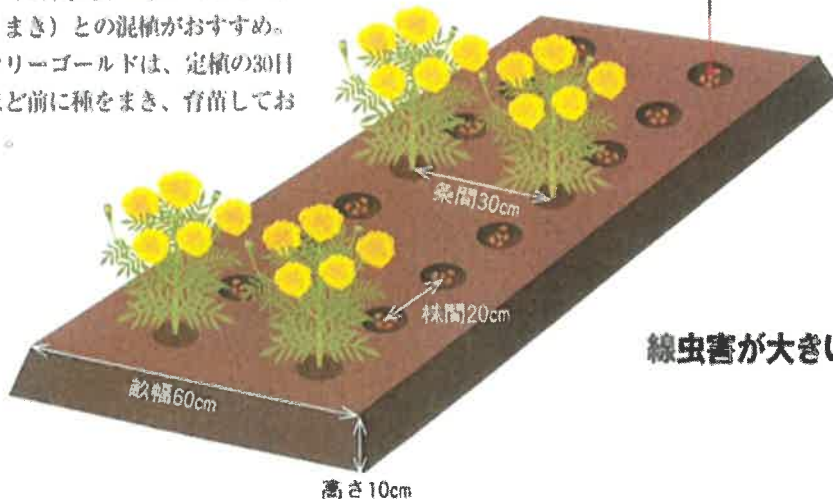
実つきがよくなり、害虫被害が減る



ネグサレセンチュウへの対策

ネグサレセンチュウの被害は、夏から秋に多くなる。夏ダイコン(6月まき)や秋ダイコン(9月まき)との混植がおすすめ。マリーゴールドは、定植の30日ほど前に種をまき、育苗しておく。

株が大きくなるアフリカントール系がおすすめ



ダイコンは1か所に5粒まきで、間引き2回で1株にする

夏ダイコンは暑さに弱いので、マリーゴールドの陰になるようにまく

線虫害が大きい場合

ダイコンの前作に畝全体で育てる。種をばらまき、上で覆うだけでよい。ダイコンの種まきの1か月前に働き込むと、緑肥にもなる

マリーゴールドは、根がネグサレセンチュウを呼び寄せて殺す働きがあることが、よく知られています。ダイコンと混植したり、前に栽培したりすると、肌のきれいなダイコンがとれるようになります。

このほかにもさまざまな効果

があります。目的に合わせて、植え方を工夫すると効果をさらに高めることができます。たとえば、マリーゴールドが発する独特の香りを利用して害虫防除。この効果を期待するならば、アブラナ科やナス科の畝で育てるのがおすすめです。また、マリーゴールドの花は、

ミツバチやハナアブなどの訪花昆虫を呼び寄せます。カボチャやズッキーニ、スイカなどのウリ科、トマト、ナスなどのナス科の野菜の近くで育てると、受粉がより確実になり、果実がつきやすくなります。

植え方によって 多様な効果を発揮! マリーゴールドの 活用ワザ

植え合わせ効果をもっと高める 5つのポイント

1 目的を明確にする

コンパニオンプランツの効果は大きく分けて、「害虫防除」「病気予防」「生育促進」「効率利用」の4つです。

たとえば、同じトマトでも、アブラムシやハダニなどを避ける「害虫防除」ならバジル、萎ちょう病などの「病気予防」ならニラ、養分供給や保湿、保温などによる「生育促進」ならラッカセイというように、目的によってコンパニオンプランツを選び、それに合った育て方をす

ることがたいせつです。

2 距離感を適切に

メインの野菜とコンパニオンプランツの距離が離れすぎると効果がありません。アブラナ科の害虫を忌避するためにキク科のレタスを育てるのなら、隣に植えるのがよいでしょう。キュウリの根から感染する土壌病害を予防するのであれば、根に接して長ネギを植えます。

逆にトマトの株元近くにバジルを植えると、バジルは生育が旺盛なため、トマトの生育が悪くなります。畑の栽培環境を考慮して、経験を積みながら、適切な距離を見つけましょう。

3 株数や品種を工夫する

チンゲンサイなどのアブラナ

科の野菜に飛来するモンシロチョウやコナガなどを避けたいなら、リーフレタスやシュンギクの混植がおすすめです。害虫の被害が多いなら、リーフレタスの株を増やしたり、チンゲンサイの列の両脇にシュンギクを育てたりします。モンシロチョウやコナガは赤色を避けるので、葉色の赤いリーフレタスを使うなど、品種の選択にもこだわるとよいでしょう。

4 栽培のスタートや栽培期間にも注意

害虫防除用のリーフレタスは、保護したいアブラナ科野菜よりも先に苗を大きくしておく効果が高まります。トウモロコシとエダマメの混植では、栽培期間の短い極早生のエダマメを

選ぶなど、栽培期間も考えて品種を選ぶ必要があります。

5 性質の似た「科」で考えよう

コンパニオンプランツは個々の野菜で相性のよい組み合わせをみていくと、数が多く複雑に思えます。分類学上の「科」で考えてみましょう。近縁の仲間

は性質も似ているため、応用できる場合がほとんどです。害虫防除のコマツナとシュンギクの組み合わせはアブラナ科とキク科なので、キャベツとレタスの組み合わせに置き換えることができます。

左の表なども参考にしながら、自分なりの応用法を見つけてみましょう。

野菜の「科」ごとのおおまかな傾向

科	野菜	効果
ナス科	トマト、ナスなど	アブラナ科とは相性が悪いものもある●マメ科と相性がよく、よく育つ●ネギ亜科ネギ属を混植して病気予防
アブラナ科	キャベツ、ハクサイなど	害虫防除にはキク科、セリ科との混植が効果的
ウリ科	キュウリ、スイカなど	ネギ亜科ネギ属を混植して病気予防●マメ科と相性がよく、よく育つ
キク科	レタス、シュンギクなど	独特の香りで害虫防除に役立つ●アブラナ科と相性がよく、たがいによく育つ
セリ科	ニンジン、ミツバなど	独特の香りで害虫防除に役立つ●アブラナ科と相性がよく、たがいによく育つ
シソ科	バジル、シソなど	独特の香りで害虫防除に役立つ●ハーブ類はアレロパシーで野菜の生育を抑制するものがあるので注意
マメ科	エンドウ、インゲン	根につく根粒菌により、土を肥沃にする●緑肥にはアレロパシーを持つ種類もあるので使用法に気をつける
ネギ亜科ネギ属	ネギ、ニラなど	根につく拮抗菌が一部の病原菌を死滅させる
イネ科	トウモロコシ、ムギなど	マメ科と相性がよい●不要な肥料分を吸収する掃除役(クリーニングクローブ)としても使える